

中部の

エネルギーを 築いた人々

福沢桃介二世・駒吉のパイオニア精神

～その2：岩村電気軌道の設立・
矢作水力との合併から廃止まで～

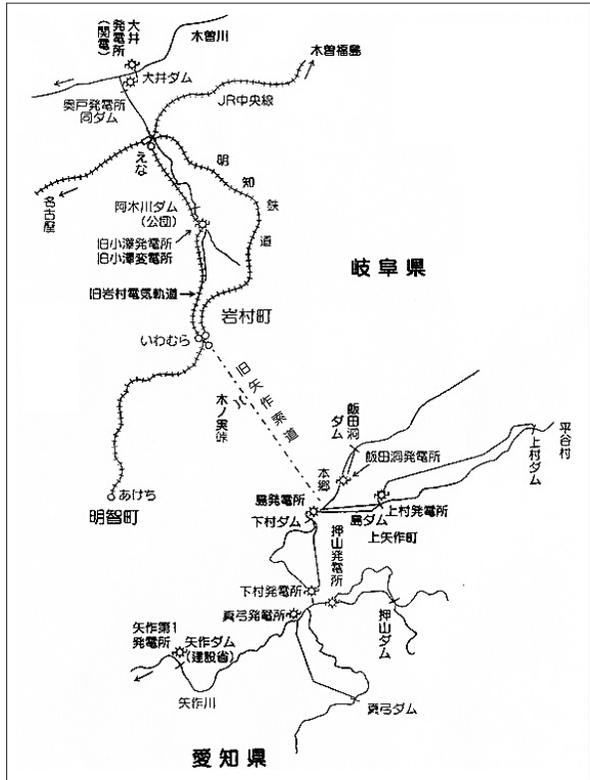
矢作水力株式会社は1919（大正8）年、矢作川水系の電源開発を目的に設立され、その後、天竜川電力、白山水力を合併し、1942（昭和17）年に解散した。この間に水力発電所20カ所と名古屋火力発電所の計21カ所を管理した。

これより先、岩村電気軌道株式会社は1903（明治36）年に設立され、3年後の明治39年に鉄道事業を開始した。この開発は、地元の岐阜県恵那郡岩村町（現恵那市岩村町）で庄屋で酒造業を営む浅見与一右衛門の主導によって進められた。これは当時、全国的に見ても画期的なことで、電気鉄道の開業順位は全国で15番目、岐阜県で電車第1号が走ることになった。

この動力源として岩村川を利用した小澤水力発電所（最大出力：90kW）を建設、余った電力は岩村町はじめ近隣6カ村に供給した。この建設工事に当

たったのは苦学して米国スタンフォード大学を卒業し、技師長に就任した佐久間権次郎であった。

今月は、岩村電気軌道の創設者・浅見与一右衛門と米国帰りの電気技師長・佐久間権次郎を紹介する。



矢作水力の発電所と岩村電気軌道・岩村索道との関連図
「岩村水力株式会社現勢図（昭和4年3月現在）」を基に作成

浅見与一右衛門の生涯

浅見は1843（天保14）年に美濃国恵那郡岩村町（現：岐阜県恵那市岩村町）で生まれた。生家は酒造業と庄屋を兼ねた名門で岩村戸長、同町出身の県会議員、衆議院議員を歴任した

政治家であった。

また、第46国立銀行設立時には取締役として岩村支店を自宅（＝現存）に開業、さらに明智濃明会社の取締役として岩村街道や東美

鉄道を主唱するなど実業家としても岩村の発展に力を注いだ。

浅見は、岩村町が鉄道省中央本線名古屋～中津川間の開通に取り残されたので、中央本線大井駅(現：恵那駅)から岩村町への便を図るため岩村電気軌道を計画し、1906(明治39)年に岩村～大井間を開業させた。開業時は、32人乗り



浅見与一右衛門
1843(天保14)年～1924(大正13)年

の客車1両と積載量3トンの電動貨車2両でスタートした。また、当時の停留所は岩村～山王下～小澤～東野口～大井で、約12.3kmの単線を1日あたり客車が3往復、貨車が5往復であった。

岩村町に尽力した浅見の銅像が岩村城山城址公園に1986(昭和61)年に建立された。

浅見与一右衛門の略歴

1843	天保14	岩村町で浅見与一右衛門為俊の長男として生まれる
1866	慶応2	浅見家9代目の家督を継ぎ、庄屋、岩村戸長、岐阜県会議員を歴任
1874	明治7	濃明会社(十六銀行の前身)を設立、取締役役に就任
1889	明治22	岐阜県会議長として日本国憲法発布の式典に参列
1894	明治27	衆議院議員となり、自民党に所属し2期務める
1903	明治36	岩村電気軌道株式会社を設立、取締役社長に就任
1924	大正13	死去

佐久間権次郎の生涯

佐久間権次郎は1875(明治8)年に愛知県知多郡亀崎町で酒造家佐久間権七の2男として生まれた。地元の高等小学校を卒業、19歳で上京、苦学しながら国民英学会、二松学舎などで学び英語修行のため東京築地のサンマースクールに通学、その後、知人を頼ってアメリカ、サンフランシスコに渡った。そこでスクールボーイとして住み込みながらスタンフォード大学を卒業しパルフルト電力会社で実習した。帰国後、浅見与一右衛門に見込まれ岩村電気軌道の技師長に就任した。

岩村電気軌道は、その動力源は、岩村と大



佐久間権次郎
1875(明治8)年～1945(昭和20)年

井の間に位置する小澤に小澤発電所を建設した。発電所の上流約1.8kmの岩村川(木曾川水系阿木川支流)の屈曲部に、自然の巨岩を利用した堰堤を設け、長さ約20mの隧道を経て木製の開渠により発電所に取水した。電気事業要覧によると「水路は開渠が幅2.5尺、深さ1.8尺、長さ1300間、隧道が幅4尺、深さ4尺、長さ14間で、巨長1044間、勾配400分の1、有効落差180尺」と記載されている。水車は144馬力のペルトン水車1台、発電機は電車用の直流発電機1台(出力:90kVA、フォートウエイン社製)と電灯・電力用の交流発電機1台を設置した。

その後、佐久間は新瀉水電大荒川水力発電所の建設、川北電気株式会社支配人企画部長を経て、朝鮮瓦斯電気株式会社に就職した。

1936(昭和11)年、朝鮮の配電統制により、南鮮合同電気(株)常務取締役役に就任した。終戦前の昭和20年、京城で亡くなった。

佐久間権次郎の略歴

1875	明治8	愛知県知多郡亀崎町で酒造家佐久間権七の二男として生まれる(19歳で上京、国民英学会、二松学舎、サンマースクールで学ぶ)
1902	明治35	スタンフォード大学卒業後、バルフルト電気会社で3ヶ月実習
1903	明治36	岩村電気鉄道株式会社の技師長として建設などに従事
1906	明治39	小澤水力発電所完工(出力：60kW、水車140馬力)、鉄道開業
1907	明治40	各地の電気会社で技師長として水力発電所の建設に従事(新瀉水電大荒川発電所の建設など)
1912	大正元	川北電気株式会社支配人企画部長
1920	大正9	朝鮮瓦斯電気株式会社、支配人、取締役から常務取締役
1936	昭和11	配電統制により、南鮮合同電気(株)常務取締役
1945	昭和20	3月、京城にて逝去

矢作水力(株)との合併から廃止

明治20年代から30年代にかけての当初の電気鉄道事業者は、ほとんどの事業者が電灯事業を兼営している。岩村電気軌道も発電機を増設して、1940(明治40)年から電灯供給事業を兼業した。

矢作水力(株)は、今まで述べてきたように矢作川水系に発電所を建設する目的で設立された。これらの発電所建設用資材は、岩村電気軌道を利用して岩村へ、さらに岩村から木の実峠を越えて上村まで矢作索道を建設し運搬した。

同社は貨物および電灯、電力の急増する需要に対応するため1920(大正9)年に岩村電気軌道を合併し、軌道・電灯事業を直営とした。

一方、矢作索道は当初矢作水力直営であったが、上村周辺の木炭、木材などの搬出や、岩村方面からの生活物資の搬入など一般用にも開放するため矢作索道(株)として1919(大正8)年に分社化した

が、12年後の昭和6年に廃止された。

ところで、矢作水力(株)電気軌道が廃止される契機となったのは、現在の明智鉄道明智線に当たる鉄道省明智線が1933(昭和8)年から翌年にかけて大井～岩村～明智間(路線総延長：25.1km)を開業したことである。この開通で電気軌道の収入が激減し営業が困難となったため、1935(昭和10)年に開業以来約29年間で運転を廃止した。

なお、参考までに矢作水力が矢作川水系で建設され、現在、中部電力に継承され稼働している発電所は次のとおりである。

(寺澤 安正)

発電所名	出力(kW)	落差(m)	運開年月	河川名	所在地
下村	4,700	83.8	大正9・12	上村川	岐阜県上矢作町下
飯田洞	630	43.3	大正10・10	飯田洞川	岐阜県上矢作町兼貞
押山	3,600	123.2	大正11・7	矢作川	愛知県稲武町押山
真弓	5,100	175.7	大正12・3	名倉川	愛知県稲武町川手
上村	9,800	306.2	大正14・11	上村川	岐阜県上矢作町高井戸
島	1,600	49.6	昭和2・12	上村川	岐阜県上矢作町下足沢
黒田	3,100	216.4	昭和9・5	黒田川	愛知県武節村